

2022年度 学校自己評価シート (浦和実業学園中学校・中高一貫部)

目指す学校像	「実学に勤め徳を養う」(校訓)に則り、円満な人格、健康な身体、豊かな教養を備え、勤労と責任を重んじる国家社会の有為な形成者を育成する。
--------	---

各学年の表記について…中学校1年生・2年生・3年生:「1年生・2年生・3年生」、高校1年生・2年生・3年生:「4年生・5年生・6年生」

重点項目	<p>1) クラス活動や行事を通じて、豊かな人間性と学校での好ましい人間関係づくりを推進する。(徳育)</p> <p>2) 実学教育の実践として行われている特色ある教育活動を通じて異文化理解を深め、学ぶ意欲を養う。(英語イメージ教育の推進)</p> <p>3) きめ細かな学習指導により、基礎学力の定着と実践的学力の伸長を図る。(学力の向上)</p> <p>4) 6年間を見据えたキャリア教育を推進し、生徒一人ひとりの進路実現を図る。(進学実績の向上)</p> <p>5) 一貫部全教職員で生徒募集活動に積極的に取り組む。(募集定員の確保と受験者数の増加)</p>
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者 懇話会委員5名 学校関係者6名

学校自己評価			2022年度評価		
年度目標			達成状況	達成度	
番号	現状と課題	具体的方策	達成状況	次年度への課題と改善策	
1	<p>○教科の学習活動を通じて、グループワークやプレゼンテーションの技術向上を図る一方で、機器を活用する上でのリテラシーやモラルは十分とは言えないので、急ぎ対応していく必要がある。</p> <p>○「オアシスの精神」の中で挨拶について、まだ満足できる結果には至っていない。今後も挨拶運動を粘り強く続けて啓蒙していく必要がある。</p> <p>○部活動の教育的意義は非常に大きい。積極的に加入を勧めるとともに、生徒にとって魅力ある部活動運営を心掛ける。</p> <p>○コロナ禍のため、目標達成に向けて主体的・協働的に取り組む力を涵養する学校行事や、一貫部全体としての団結力を意識づける機会が少なくなってしまった。感染予防に努めつつ、コロナ禍前の通常の状態に戻していく必要がある。</p>	<p>○iPadが6学年を除く1～5学年に配付されるにあたり、リテラシー教育を定期的に行い、便利なツールだからこそ使い方に注意が必要であることを理解させる。</p> <p>○教職員が積極的に声掛けを行い、生徒と日常的にコミュニケーションをとることで、「オアシスの精神」を定着させ、校内を更に活気ある雰囲気にしていく。</p> <p>○「スクールライフ」は生徒把握に有効であるので、今後も引き続き活用していく。</p> <p>○新入生歓迎会での部活動勧誘や、部活動集会での未加入者指導等を通じ、部活動参加率を上げていく。</p> <p>○オリエントキャンプ、教育旅行などの宿泊を伴う行事に関しては、感染状況を注視しながら、現地での活動内容をコロナ禍の現状をふまえた形で実施できるよう検討する。</p>	<p>○1年生対象に「携帯・スマホ安全教育」を実施し、モバイル機器による他者との付き合い方について考察を深める指導を行なった。</p> <p>○4・5・6年生の生活委員による挨拶運動を9/12、10/11、11/8に行い、中学生だけでなく一貫部全体での挨拶の徹底を図った。</p> <p>○コロナ禍により行事の日程・内容などの変更を余儀なくされたが、行事を通じて協調性を育み達成感を得るという意義は極めて大きいので、次の校外行事を実施した。</p> <p>【4/14～16】1年生オリエントキャンプ【4/20～22】6年生沖縄教育旅行【6/23】1年生美術館学習【6/24】1年生博物館学習・2年生福祉体験【6/23～25】3年生京都・奈良教育旅行【6/22～25】5年生沖縄教育旅行【7/12】1～3年生芸術鑑賞会【8/4～6】4年生京都・奈良教育旅行【9/15】4～6年生芸術鑑賞会【9/26】1～3年生合唱祭【10/12】1～6年生スポーツフェスティバル【11/16】1年生社会見学・2年生職業体験(～11/18)・3年生防災学習など。各行事では保護者にClassで様子を画像や動画などその都度、配信した。</p> <p>○心と身体が急激に変化する3・4年生を対象に、性に関する正しい知識を持つことを目的として今年度初めて、外部の方を招いて「性教育講演会」を11/24に実施した。当日の様子は実施後、保護者にも配信した。</p>	A	<p>○コロナ禍でマスクを着用しているため、挨拶をしても、表情がわからないので、意思疎通が十分行えない。オアシス精神の実践には挨拶は欠かせないものなので、生徒たちに理解を求め、リアルな表情で挨拶ができるようにしていきたい。</p> <p>○コロナ対応に追われながらも各行事を実施できた意義は大きい。今年度は合唱祭、スポーツフェスティバル、スピーチコンテストなど一貫部全体での実施ができ、生徒たちの満足度も高かった。5類に移行する次年度は中高一貫部としての行事をできる限り多くすることで、1～6年までの一体感を作り、一貫としてのメリットを生かしていく必要がある。</p>
2	<p>○英語イメージ教育の成果として、ほとんどの生徒の「聴く力」は向上しているが、一方で「話す力」の達成度は、積極性のある一部の生徒以外は余力を残している。ネイティブとの双方向のコミュニケーション能力の養成が必要である。</p> <p>○「書く力」と「読む力」も決して満足のいくものではないため、語彙力を増やす取り組みが必要である。</p> <p>○今年度もコロナ禍によりハイ短期留学が中止となったため、現地で英語力を試す機会がなくなってしまった。代替措置としてUHCとのリモート授業を実施しているので、国際教育部と連携して内容を充実させる必要がある。</p>	<p>○英語に興味・関心を強く持つ生徒と標準レベルの生徒の習熟度別授業を実施する。7名のネイティブ教員の協力のもと、双方にとって教育的効果の高いプログラムを構築していく。</p> <p>○職員室前の本棚に置かれていた多くの洋書を積極的に活用させ、「読む力」「書く力」を育てていく。</p> <p>○昨年度、リモートによるUHCとのコミュニケーションプログラムを実施したが、予想以上に生徒は主体的に楽しく取り組んでいた。今年度も積極的に参加させ、少しでも満足度の高い有意義な活動にしていく。</p>	<p>○他校では類を見ない英語イメージ教育は一貫部の大きな特色である。その成果の一つとして海外の大学への進学を視野に入れる生徒・保護者が増えてきた。ただし、これまでは生徒・保護者自らが進学先を探しており、学校としてなかなかサポートできずにいた。この状況を改善すべく今年度より「Study Abroad Plus (以下:SAP)」と称し、海外大学進学支援システムを導入した。海外大学進学雑誌の整備、全5回の講演、個別進学指導対応などを外部の方に依頼し実践したところ、これまで海外大学進学を全く考えていなかった生徒たちも前向きに検討するようになり、保護者からの高評価も得られた。</p> <p>○5年生が参加したハワイUHCスタッフとのリモートによるコミュニケーションプログラムを4月に2日間、9月に7日間、計9日間実施し、生徒たちも日頃の英語学習の成果を発揮し、現地スタッフとの英会話を大いに楽しんだ。</p>	A	<p>○SAPは高校生よりも中学生の方が興味・関心を寄せる傾向が強かった。海外大学への進学を実現させるため、短期留学や長期休業中のネイティブキャンプなどの案内を紹介し、海外に意識を向けさせたい。</p> <p>○授業やHRなどでネイティブ教員が指導をしているが、その他の時間に生徒たちと交流することが英語力の向上に繋がるので、有効な方法を模索していきたい。</p> <p>○中学2・3年生(1年延期)がブリティッシュ・ヒルズ語学研修を実施できたのはとても有意義であった。今後も中学2年生の目玉の行事として再継続していくことの必要性を大いに感じた。</p>
3	<p>○様々な入試を導入したことで入学者の学力も多様化している。全体指導では十分にフォローできない場面も出てくるので、生徒個々の到達度に合わせて個別指導することが重要になる。</p> <p>○思考力・判断力・表現力の向上を目的として、ICT機器の効果的な活用法など、新しい教育に対応できるよう教員研修に力を入れる。</p> <p>○探究学習に関してはまだ始まったばかりで実績が少ないため、一貫部全体で企画・立案し、生徒の将来を見据えた具体的な指導計画を立てる。</p>	<p>○放課後学習支援システム「学びPlus」を本格的に実施し、AI教材「atama+」を使った自学自習方式で、受け身の学習から自ら学ぶ姿勢へと転換させる。</p> <p>○6学年を除く1～5学年にiPadが配付され、学びのスタイルも様変わりしていくため、校内・校外の各種研修へ積極的に出向き、研鑽する。</p> <p>○探究学習では「いつまでに」「何を」「どのように」行うか、といったロードマップを描き、実行していく。</p>	<p>○「学びPlus」を4・6年生は必修としているが、他学年は希望制で11月現在1年生27人、2年生15人、3年生25人の計67人が受講している。利用の促進を行うべく、4年生には11/9～11、11/16～18にスタッフによる模擬試験の解説授業をレベル別に実施した。他に個別授業、オンライン英会話、atama+の科目追加などの利用者も微増している。</p> <p>○日々の予習・復習教材や振り返りなど、iPadを整備したことで容易に配信、回答を得られるようになり、生徒たちの学習の取りこぼしが少なくなってきた。</p> <p>○4年生の探究学習では「イベント、自由研究発表など自らが学ぶ姿勢に向かう態度を育成することに努めた。</p>	B	<p>○「学びPlus」を稼働したが、生徒によって利用率に差があったので、効果的に活用できる方法を模索し、実行していく必要がある。</p> <p>○一貫部の強みである発表形式の授業はiPadの利用により加速したが、生徒個人によって内容に差があるので、可能な限り、レベルアップを図っていきたい。</p> <p>○今年度、校舎建て替えにより、図書館が使用できなかったため、探究活動に欠かせない調べ学習ができなかった。校舎が完成する次年度は積極的に図書館を利用していきたい。</p>
4	<p>○本校初の京都大学現役合格を初め、北海道大学2名合格など、2022年3月卒の12期生の進学実績は目覚ましいものがあった。次年度以降もこれに続くべく、進学指導に一段と力を入れ、教職員全体で受験学年をサポートする体制を整える。</p> <p>○一貫部では創立以来英語イメージ教育を実践し、英語に興味・関心が高い生徒が入学しているが、海外大学進学への道筋が未だ確立していないため、方策を練る必要がある。</p>	<p>○進学実績向上のため、成績委員会等を通じて一貫部全教員が生徒一人ひとりの学力を把握した上で効果的な学習指導方法を確立し、継続的に学習指導・進学指導に努める。</p> <p>○海外大学への進学や留学を考える生徒の掘り起こしを行い、3年後には海外の大学に数名進学できるプロジェクトを確立していく。</p>	<p>○一貫部保護者対象「2022年度進路結果報告会」を6/4に実施、会場参加は29名、オンライン参加は130名であった。</p> <p>○進学実績向上には継続的な意識付けが不可欠であり、11/17に本校進学指導主任より4年生対象進路講演会、5年生は7/26に大宮ソックで普通科・商業科合同進学会を実施した。</p> <p>○先述のSAPの講演会は7/14に1年生から6年生全体に、9/29、11/10、12/20、2/7は希望者対象に講演会を実施(予定)した。海外大学経験者2名が「海外大学に進学するメリット」や「海外での大学生活」など毎回テーマを変えてディスカッション形式で行うため、参加者からはわかりやすく、気軽に聞けると好評を得ている。当日の様子は実施後、保護者にも配信している。</p>	B	<p>○進学実績が毎年、着実な数値となって表れるよう、一貫部全体で進学指導をしていかなければならないことを痛感した1年であった。部署や役職などの配置転換を含めた思い切った改革も必要である。</p> <p>○今年度よりSAPを始めたが、海外大学進学レベルに達していないと考えがちな高校生もいるため、誰にでも可能性があることを周知していきたい。</p>
5	<p>○学校説明会の参加者には毎回アンケートにご協力いただいている。その結果からは満足度の高さがうかがえるが、思ったほどの入学者増には繋がっていない。入学者を増やす取り組みを訴求する必要がある。</p> <p>○中学受験を考えていない家庭に向けても本校の魅力伝え、少しでも受験を意識してもらえるような企画や取り組みを企画・立案する。</p>	<p>○「OPEN SATURDAY」と称し、「算数講座」や「英語であそぼう」等、地域の小学生に向けた講座を設け毎年好評を博している。今後は教員だけでなく在校生も手伝うことで、より本校を身近に感じ取ってもらうようにする。</p> <p>○英検や外部模試の公開会場として本校を使用する際、付き添いで来校した保護者を対象に説明会を行い、受験生の掘り起こしを行う。</p> <p>○ホームページをより一層充実させ、生徒目線で発信できるようなシステムを構築する。</p> <p>○生徒募集の要である塾訪問についてはエリアを拡大し訪問数を増やす必要があるが、教員だけでは限界があるため、外部の力を借りて行うことも検討していく。</p>	<p>○「学校説明会」9回、「算数講座」6回、「英語であそぼう」3回、「生物部活動体験」5回、「理科の実験講座」2回、他に作文添削講座3回、夏の体験講座を行うなど多数のイベントを実施。毎回、異なる在校生が手伝ってくれるため、参加した保護者からは「自分の子どもの将来が等身に浮かぶ」と頗る評判が良い。</p> <p>○小6対象四谷大塚組分けテスト(7/17)、小6対象適性検査型首都圏模試(9/19)、小4対象四谷大塚組分けテスト(11/12)の公開会場として貸し出し、保護者対象の説明会を実施した。特に小4対象の説明会では一貫校の優位性などを説明に加えたところ、反応がよかった。</p> <p>○10/29に「在校生の弟妹のための入試本番体験」を初実施。16名が参加。</p> <p>○塾訪問は今年度より外部業者にも委託し、東京は23区を中心に八王子くらいまで、埼玉・千葉・神奈川県については都内でも出やすい地域の塾に対して6000～6500件程度の案内を実施。本校教員は重点塾を中心に訪問した。</p>	A	<p>○今年度の入試結果は志願者数2,925人(昨年比+480)、実数1,479人(昨年比+187)、入学者は102名(昨年比+39名)の増であった。増加の理由は12期生の進学実績や新制服導入、校舎建替など様々な要因があるが、四谷大塚組分けテストや首都圏模試の公開会場として校舎貸しし、保護者向け説明会を実施したことも大きな理由の一つである。外部貸しは本校の受験を考えていない家庭にアピールできるので継続して行いたい。</p> <p>○在校生の弟妹向けに独自に入試問題学習会と説明会を実施した。参加者の6割が入学した。</p>

学校関係者評価
実施日 2023年6月17日
意見・要望・評価など
<p>○協調性を育むには人との接触が大切であるので、コロナ禍においても対面での行事はできる限り実施してほしい。</p> <p>○3年生の防災学習にSDGsを取り入れてはどうか。</p>

<p>○英語イメージ教育をはじめ、私立ならではのきめ細やかな指導に期待している。</p> <p>○イメージ教育は、授業やホームルーム、清掃活動はもちろん、自由にネイティブと会話ができるスピーキングタイムについても今後は期待したい。</p> <p>○英語を話す・聞くだけでなく、ネイティブ教員それぞれの出自である異文化を理解することも大切である。</p>
--

<p>○ICTを用いることで、積極的な生徒、控えめな生徒といった性格の差異にかかわらず、探究学習に対して均質に取り組めるのは利点である。</p> <p>○探究学習については、教員の側も意識を持って取り組んでいるという姿勢を生徒に見せることが推進につながると思われる。</p>

<p>○大学入試は年々変化しているのに加え、生徒の学力も年によって差異があるので、それに適した指導が必要である。</p> <p>○6年間を効率よく使って、少しでも先取り学習を進めるとともに、入試演習量を増やさなければならぬ。</p> <p>○4年生から6年生までの3年間の担任を固定してくれたおかげで、担任が生徒の学力を正確に把握しており安心している。</p>
--

<p>○受験者数、入学者数の安定的増加に今後も取り組むべきであるが、在籍数が増えた際のホームルーム運営や授業への工夫も継続してほしい。</p>
